

手術を受け目が覚めたのは3日後

風力発電建設のため地上から60mの高さで、年間の風力と風向きのデータを取る仕事をしている58歳の男性。

出張先のビジネスホテルで、これから仕事へ出かけるというときに、左耳にすごい音の耳鳴りのような感覚があったので何だろうと思っているうちに、左胸に尋常でない痛みが襲われたとか。

心臓発作かなと思いながら数分経てば収まるのではないかと期待していたものの、一向に痛みは治まらないため救急車を自分で呼んだそうです。

まだ意識はあったので、部屋のカギを開けておき、「救急車で病院に行くから今日の仕事は行けない」と同僚に電話し、「フロントに救急車を呼んだからヨロシク」と伝え、保険証とサイフを持って1階のフロントへ。

ちょうど救急車が到着。「こういう病気のときは、患部が大きくなるから絶対に安静だぞ」といわれながらストレッチャーに乗せられました。

その後、意識を失い、病院のストレッチャーに移されるときに意識が戻ったといえます。

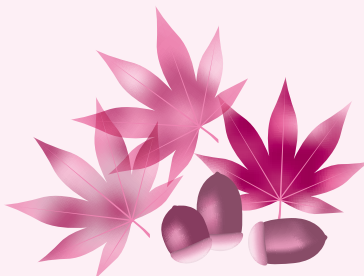
10時間にもわたる手術をして、目が覚めたのは3日後。奥様は1人で病院に来ていて付き添ってくれていたそう。1か月半くらいしてから東京の病院に転院、リハビリすることに。

偶然にもその東京の病院の担当医が、出張先で執刀してもらった先生の恩師で、「彼は若いときから器用だったんだ」

店頭から「こんにちは」

第168回

肉体仕事とヘビースモーカーの男性
救急搬送され大変な手術を経験
出張先のホテルで倒れ、そのまま救急車で運ばれた男性。10時間にもわたる手術を受け一命をとりとめ、今は元気に働いています。



と後輩を褒めていたとか。だから何も心配なくリハビリができたとのこと。

奇跡的に後遺症は見られず

だんだんと仕事に復帰していく間に、動脈解離になったという複数の知人に話を聴くことができたそう。

中には発病時の尋常でない痛みで気を失ったまま亡くなった人や、命は助かったが半身不随になった人、腎臓透析になってしまった人などの話を聴かされ、「何も後遺症が出なかった自分は奇跡が起こったとしか思えない」といいます。

あるとき、お寺でこの病気の経過のことを話したらご住職は「あなたを必要としている人がまだいっぱいいるから、仏様はあなたを生きさせておいたんだ」とのこと。「その言葉を胸に、また全国を仕事で飛び回るつもりです」と話してくれました。

タバコは若いころからかなり吸っていて、病気が発症する少し前から電子タバコにかえていたそうです。

今思うと、「毒にしかならないタバコをなぜこんな長い期間吸っていたんだろう」と後悔しているといえます。

宮川薬局(宮城県仙台市)代表
薬学博士・薬剤師

みやがわとしじ
宮川季士先生

プロフィール

1976(昭和51)年、東北薬科大学(現・東北医科薬科大学)卒業。'78(同53)年、同大学大学院修士課程修了。'87(同62)年、薬学博士学位。地域に根ざしたおクスリ屋さんとして、多くのファンが。「働き過ぎないように気をつけてください」

